

雜 報

◎人 事

叙従五位 正六位 大 熊 泰 治
叙正六位 従六位 山 口 龍 契

(八月十五日)

岡山醫科大學教授 奥 島 貫 一 郎
陸叙高等官一等

岡山醫科大學助教授 小 田 大 吉
陸叙高等官四等

(八月三十一日)

横須賀海軍病院第一部
長兼教官海軍軍醫大佐 高 城 喬
免兼職

叙従五位 正六位勳四等 山 田 昇
叙従七位 正八位 栗 林 太 郎

(九月二日)

岡山醫科大學助教授 清 水 勝
職務俸金五百四拾圓下賜

(九月十四日)

東京帝國大學教授 島 園 順 治 郎
日本薬局方調査會委員被仰付

(九月二十一日)

歩兵第二十七聯隊
附陸軍二等軍醫 關 谷 重 幸
補旭川衛戍病院附

(九月二十一日)

岡山醫科大學教授 鈴 木 稔
賜本俸二級俸

(九月二十三日)

叙正六位 従六位 小 田 大 吉
叙正六位 従六位 小 田 大 吉

(九月十六日)

○中島琢之君 は先般本縣津山市の名譽市長に當
選せられたり

○杉山九一君 臺灣總督府臺北醫學專門學校教授
杉山九一君は1昨年臺灣總督府より在外研究を命
ぜられ歐米各國に於て研究に従事し居られしが去
月下旬無事歸朝せられたり

○酒井美雄君 は豫て松江市健康保険相談所に勤
務し居られしが今般辭職し呉市海軍共済組合病院
に勤務せられたり

○佐藤義信君 は朝鮮京畿道仁川醫院に勤務し居
られしが今般其職を辭し岡山縣阿哲郡新見町に於
て開業せられたり

◎學位授與

松谷辰造, 菅龍正, 國正薫, 森信胤, 奥村雅延,
下山丈夫の6君は豫て論文を岡山醫科大學に提出
し學位を請求し居られしが松谷, 菅, 國正の3君
は本年7月1日の教授會を通過し, 本月16日,
森, 奥村, 下山の3君は同月11日の教授會を通過
し本月19日孰れも醫學博士の學位を授與せられ
たり其主論文及び參考論文は左の如し

松 谷 辰 造 君

主 論 文

口蓋扁桃腺窩ノ發生學的並ニ形態學的研究

第1回報告 口蓋扁桃腺窩研究ト象形復成
術

第2回報告 胎兒口蓋扁桃腺ノ窩ニ就テノ
觀察

第3回報告 哺乳兒口蓋扁桃腺窩ニ就テノ
觀察

第4回報告 成人口蓋扁桃腺窩ニ就テノ觀
察

第5回報告 慢性口蓋扁桃腺炎ニ於ケル腺窩ノ觀察

以上5編共大日本耳鼻咽喉科會々報ニ發表ノ豫定
參考論文

口蓋扁桃腺ノ血管ニ關スル研究補遺

第1編 口蓋扁桃腺並ニ周圍組織ニ於ケル特殊構造ヲ有スル血管ニ就テ

其1. 動脈内膜ノ枕狀或ハ半月狀肥厚ニ就テ

第1編 同上

其2. 動脈「リノスベン」ニ就テ

第1編 同上

其3. 靜脈ノ特異組織像ニ就テ

第2編 口蓋扁桃腺並ニ周圍組織ニ於ケル血管壁彈力纖維ノ發現並ニ排列様式ニ就テ

第3編 口蓋扁桃腺並ニ周圍組織ニ於ケル血管形成ニ就テ

以上5編ハ大日本耳鼻咽喉科會々報第41卷第2號ニ掲載セリ

菅 龍 正 君

主 論 文

癩及癭ニ對スル灰白軟膏療法ノ臨牀的並ニ實驗的研究

其1. 臨牀的研究 (本誌第44年第7號ニ掲載セリ)

其2. 實驗的研究 (第1報) 病理學的細菌學的研究 (本誌第45年第2號ニ掲載セリ)

其3. 實驗的研究 (第2報) 血液學的研究 (本誌第46年第8號ニ掲載セリ)

其4. 實驗的研究 (第3報) 血清學的研究 (本誌第47年第4號ニ發表セリ)

參考論文

其1. 膽囊穿孔ニヨル膽汁性腹膜炎ニ就テ (本誌第47年第3號ニ掲載セリ)

其2. 腹壓ニヨル腸管破裂ノ1例 (グレンツゲビート第6年第11號ニ掲載セリ)

其3. 所謂特發性脱疽ニ對スル局所主靜脈結紮療法ニ就テ (追テグレンツゲビートニ掲載ノ豫定)

其4. 一次性腸骨骨髓炎ニ就テ (本誌第46年第7號ニ掲載セリ)

其5. 再ピ「ノイリノーム」ニ就テ (本誌第44年第10號ニ掲載ス)

國 正 薫 君

主 論 文

家兎ノ生體內腸管並ニ子宮ニ於ケル藥理學的研究

1. 「ベラトリン」「ピクロトキシシ」及ビ「コカイン」ノ生體及ビ摘出家兎小腸ニ於ケル作用ニ就テ (本誌第47年第3號ニ掲載セリ)

2. 「ベラトリン」「コカイン」及ビ「ピクロトキシシ」ノ生體家兎腸管ニ於ケル作用ニ及ボス麻痺毒ノ影響ニ就テ (本誌第47年第4號ニ掲載セリ)

3. 「ヴェラトリン」「ピクロトキシシ」及ビ「コカイン」ノ家兎子宮ニ對スル作用ニ就テ (昭和10年7月日本藥物學雜誌ニ掲載ノ豫定)

4. 生體家兎ノ腸管及ビ子宮ニ於ケル「アドレナリン」並ニ「アドレナロン」ト「コカイン」トノ併用作用ニ就テ (昭和10年7月日本藥物學雜誌ニ掲載ノ豫定)

參考論文

1. 「ヒューン」ト「ピツイトリン」「ヒスタミン」及ビ「バリウム」等トノ摘出家兎子宮及ビ膀胱ニ於ケル併用作用ニ就テ (日本藥物學雜誌第19卷第3號ニ掲載セリ)

2. 人類子宮ニ於ケル「ヒニーン」ト子宮緊縮薬トノ伍用ニ就テ (日本薬物學雜誌第 20 卷第 1 號ニ掲載セリ)
3. 脾臓筋ノ藥理學的研究追補 (追テ本誌ニ掲載ノ豫定)
4. 「クラレ」「テトロドキシシ」「ヒトリヒニン」「ヴェラトリン」及ビ亞硝酸「ナトリウム」ノ末梢血管作用ニ就テ (本誌第 47 年第 2 號ニ掲載セリ)

森 信 胤 君

主 論 文

- 電流ノ生物ニ對スル作用ニ就テ
1. Paramaecium ノ電流ニヨル興奮並ニ電擊死ニ關スル研究 (本誌第 46 年第 7 號ニ掲載セリ)
 2. 電流ニヨル溶血現象ニ關スル研究 (本誌第 47 年第 4 號ニ掲載セリ)
 3. 電流刺激ニヨル細胞膜ノ透過性ノ變化ニ就テ (本誌第 47 年第 4 號ニ掲載セリ)

參考論文

1. 「ヒスタミナーゼ」ノ作用機轉ニ就テ (本誌第 47 年第 3 號ニ掲載セリ)
2. Histamin ノ蛙血管ニ對スル作用知見補遺 (追テ本誌ニ掲載ノ豫定)
3. 天竺鼠腸管ニ對スル Histamin ノ作用侵襲點ニ就テ (追テ本誌ニ掲載ノ豫定)
4. 菠薐草 (Spinacin oleracea mill) ノ越幾斯及ビ „Spinacin” [Sankio] ノ有效成分ニ關スル生物學的研究 (追テ本誌ニ掲載ノ豫定)
5. 胃腸 Hormon 中ニ存在スル Histamin ニ就テ (追テ本誌ニ掲載ノ豫定)
6. 腦下垂體後葉有效成分ニ關スル研究 (追テ本誌ニ掲載ノ豫定)
7. 肺臟毒ノ研究知見補遺 (追テ本誌ニ掲載

- ノ豫定)
8. 複視ニ關スル研究 (追テ本誌ニ掲載ノ豫定)
 9. 蛙後肢血管灌流實驗ノ際ニ於ケル該標本ノ「アドレナリン」其他 2, 3 藥物ニ對スル感度増大現象ニ就テ (本誌第 47 年第 3 號ニ掲載セリ)

奥 村 雅 延 君

主 論 文

- 微量燐ノ成長期個體骨系統ニ及ボス影響ニ就テ
- 其 1. 微量燐ノ成長期正常動物骨系統ニ及ボス影響ニ就テ (追テ本誌ニ掲載ノ豫定)
 - 其 2. 微量燐ノ實驗的尙癆病動物骨系統ニ及ボス影響ニ就テ (追テ本誌ニ掲載ノ豫定)

參考論文

1. 乳兒ノ管狀骨「レ」線像ニ於ケル線狀橫陰影ニ就テ (兒科雜誌第 411 號ニ掲載セリ)
2. 鹽酸「オプトヒン」其他若干藥劑ガ肺炎双球菌其他若干種及ビ動物體ニ對スル作用比較検査 (兒科雜誌第 394 號ニ掲載セリ)
3. 實驗的家兎尙癆病ニ對スル「トレンタル」ノ作用ニ就テ (本誌第 46 年第 12 號ニ掲載セリ)
4. 實驗的家兎尙癆病ニ對スル「ヤトコニン」ノ作用ニ就テ (本誌第 47 年第 2 號ニ掲載セリ)
5. 新止血劑「イルメリン」ノ兒科領域ニ於ケル臨牀經驗 (東京醫事新誌第 2787 號ニ掲載セリ)

下 山 丈 夫 君

主 論 文

- 兩棲類ノ舌鰓骨格ノ形態及ビ發生ニ關スル研究
- 其 1. 無尾目日本産蟾蜍ニ於ケル検索 (本誌第 45 年第 11 號ニ掲載セリ)

其 2. 無尾目 シュレーゲル 青蛙 = 於ケル検索

(本誌第 47 年第 1 號 = 發表セリ)

其 3. 有尾目, 赤腹蝶螈 = 於ケル検索 (追テ

本誌 = 發表ノ豫定)

其 4. 有尾目 Hynobius (岡山縣産) = 於ケル

検索 (追テ本誌 = 掲載ノ豫定)

参考論文

其 1. 喉頭氣管軟骨ノ發生 = 就テ

特 = 無尾兩棲類 シュレーゲル 青蛙 = 於ケル檢

索 (本誌第 46 年第 5 號 = 掲載セリ)

其 2. 同上

特 = 無尾兩棲類日本産蟾蜍 = 於ケル検索 (本

誌第 46 年第 9 號 = 掲載セリ)

其 3. 無尾兩棲類ノ氣道壁 = 於ケル所謂 Corti-

lage santarini ノ成因 = 關スルー知見 (本誌

第 47 年第 3 號 = 掲載セリ)

◎醫科大學共同雜誌目錄の再版

大阪帝國大學司書高木武之助氏曰く「現今如何なる大學でも若しその圖書館がよく定期刊行物を備付けて居らなければ尋常に仕事をすることは出来ないそれがまた大學の圖書館とよしんば澤山の定期刊行物の揃を備付けてなくとも結構繁昌もした公衆に對して良き「サーヴィス」をする事の出来る普通の公衆圖書館との相違する點である」と聖アンドリュウズ大學圖書館長である George Herbert Bushnell 氏が述べてゐるが定期刊行物が學術研究上如何に重要な役割を持つものであるかは今更これを喋々するまでもないことであるされば如何なる大學でも定期刊行物のためには年々の圖書館大部分を費して居る状態であるがしかも遠く既刊號に遡つて多數の「セット」を備付けると云ふことはなかなか容易のことではないそれは單に經費だけの問題ではなく定期刊行物の揃がさうザラに市場に轉がつて居るものではないからで

ある自分の處に備付が無ければ勢ひこれを借覽するほかになく此處に有無相通ずる相互貸借の制度が生れて來るのである

近來各大學等が所藏の定期刊行物を一括した合同雜誌目錄刊行の要求が各方面に叫ばれて來たのもさうした必要から起つたものに外ならない多年待望されて居た學術研究會議の「外國學術雜誌目錄」改訂版も目下漸く編纂途上にありまた一方分科的なものではあるが此の程農學關係の「外國學術雜誌綜合目錄」(鳥取高等農業學校編)や「醫科大學共同學術雜誌目錄」(醫科大學附屬圖書館協議會編)の再版が刊行されるなど相次いでかうした企が實現されてゆくのも畢竟時勢の要求に應じたもので學術研究のためまことに慶ぶべきことである

「醫科大學共同學術雜誌目錄」が醫科大學附屬圖書館協議會によつて初めて刊行されたのは昭和 6 年の秋のことであるが當時同協議會に加盟して居たのは新潟, 岡山, 千葉, 金澤, 長崎, 京都府立の各醫科大學と東北, 大阪兩帝國大學の醫學部とて同目錄はこれ等 8 大學所藏の内外科學術雜誌を収録したものであるしかるにその後數年ならずして各大學の所藏雜誌が増加する一方, 新たに名古屋, 熊本兩醫科大學の加盟によつて全面的にこれを改版増補する必要が起つて來たのであるかくして昭和 8 年 8 月に開催された第 7 回協議會に於て同目錄再版刊行の議が經まり岡山醫科大學附屬圖書館にその編纂を一任することとなつた爾來 2 箇年近く鋭意編纂の任に當つた同館關係者の努力の結晶として此の程漸く再版が完成されたことは加盟各大學のみならず廣く我が學界のため眞に慶賀すべきことと云はねばならない。(中外醫事新報第 1222 號)